

児童と保護者が認知・利用している緑環境の評価に関する研究 (その1)
—アンケート調査に基づく児童と保護者の緑環境評価—

正会員 ○中島 範子* 同 山口 拓也*
同 小林 祐司** 同 佐藤 誠治***

緑地 アンケート
緑勢圏 環境教育
都市公園

1. はじめに

緑は生物が生きていくための生態系の基盤であり、かけがえのない自然資源である。この緑環境を次世代により良い状態で引き継いでいくために、近年、小学校では、環境教育の必要性が高まってきた。児童が自然とのふれあいを得ることができる場として緑地を利用するためには、現在児童が身近な緑をどのように認知・利用しているかを把握し、それぞれの緑地が居住者の利用に影響する範囲(以下、緑勢圏*とする)を知る事が、一つの重要な視点と考えられる。

そこで本研究では、緑地利用の現状と利用者の意識についての把握、各緑地の緑勢圏を導出し、身近な緑環境の現状を明らかにすることを目的とする。本稿では、小学校でのアンケート調査によって、児童と保護者の緑利用の現状と利用者意識についての把握を行う。

表1. アンケート調査の内容構成

問	項目	対象
	属性	全回答者
問1	児童(性別, 学年, 居住地) 保護者(性別, 年代, 居住地)	
	緑利用について	全回答者
問2	(1) 住んでいる周りの緑(児童・保護者) 1.山林 2.公園 3.街路樹 4.田畑 5.分らない 6.その他 (2) 一番よく利用する緑(児童・保護者) 1.山林 2.公園 3.街路樹 4.田畑 5.分らない 6.その他 7.利用していない (3) (2)で回答した緑と自宅の位置を地図上にマーク	
問3	「地図にマークした緑」について(児童・保護者) (1) 利用目的【複数回答可】 (2) 利用頻度 (3) 利用時間 (4) 誰と利用するか【複数回答可】 (5) 親水空間の有無【複数回答可】	
	「地図にマークした緑」の現状について(児童・保護者)	問2 (2) 5・7を除く
問4	(1) 緑量 (2) 空間の広さ (3) 遊具の数 (4) 休憩スペース (5) 生物の数 (6) 管理 (7) 眺め	
問5	「地図にマークした緑空間」の安全性【複数回答可】(保護者)	
問6	「住んでいる周辺の緑」について(児童・保護者) (1) 緑量 (2) 管理 (3) 眺め	
問7	学校・地域・家庭での環境学習について (1) どこで環境について学習するか (2) 環境学習で行った体験【複数回答可】(児童) (3) 環境学習で取り入れて欲しい体験【複数回答可】(児童・保護者) 自由記述(保護者)	
問8	(1) 住んでいる地域の緑と緑空間についての課題, 要望 (2) 学校・地域・家庭での環境教育についての課題, 要望	

2. 研究の方法

一昨年度の研究では、大分市の565地区(町丁目単位)を緑環境評価指標(緑地指標・市街地指標・地形指標・活性度指標・建物用途構成比・社会的環境指標)をもとに数量化Ⅲ類分析を行った。数量化Ⅲ類分析で得られた結果をもとにクラスター分析(Ward法)を行った結果8つのクラスターに分類することができた。各クラスターそれぞれ3地区、計24つの居住地に関して緑勢圏評価を行っている。

本研究では、得られている8クラスターから人口が平均を示す居住地を1つずつ抽出し、計8つの居住地を選び、各居住地が含まれる学区の小学校A~Hでアンケート調査を実施した。アンケートは、各小学校の5・6年生1クラスずつ計536名に配布した。アンケート調査は児童が回答する項目と保護者が回答する項目両方を記載しており、一緒に回答する形式をとっている。(表1)

3. 学区からみる緑の利用状況

3-1. 緑利用の有無

表2は、「一番よく利用する緑はどれか」を学区ごとにまとめた表である。H小学校区の保護者を除いた全学区の児童、保護者で公園が高い割合を占めている。また、児童と保護者を比較すると保護者の方が「緑を利用していない」と回答した人が多い。一方で、街路樹のみ全学区で保護者の方が多く利用している。

表2. 一番よく利用する緑

		緑の種類							緑を利用していない
		合計	山林	公園	街路樹	田畑	わからない	その他	
全体	児童	445	2.7%	77.8%	3.6%	1.3%	2.5%	4.7%	7.4%
	保護者	452	2.7%	45.8%	12.8%	3.5%	3.1%	7.5%	24.6%
A	児童	68	4.4%	83.8%	4.4%	1.5%	0.0%	4.4%	1.5%
	保護者	68	2.9%	52.9%	10.3%	7.4%	4.4%	8.8%	13.2%
B	児童	35	2.9%	88.6%	2.9%	0.0%	2.9%	0.0%	2.9%
	保護者	37	0.0%	48.6%	8.1%	0.0%	2.7%	2.7%	37.8%
C	児童	45	2.2%	86.7%	2.2%	4.4%	0.0%	0.0%	4.4%
	保護者	45	4.4%	44.4%	11.1%	4.4%	2.2%	4.4%	28.9%
D	児童	63	1.6%	88.9%	1.6%	1.6%	1.6%	1.6%	3.2%
	保護者	64	4.7%	48.4%	17.2%	4.7%	3.1%	6.3%	15.6%
E	児童	60	3.3%	55.0%	10.0%	0.0%	0.0%	13.3%	18.3%
	保護者	60	0.0%	36.7%	21.7%	0.0%	1.7%	10.0%	30.0%
F	児童	43	0.0%	86.0%	0.0%	0.0%	2.3%	2.3%	9.3%
	保護者	43	0.0%	58.1%	11.6%	2.3%	0.0%	7.0%	20.9%
G	児童	67	4.5%	74.6%	6.0%	1.5%	3.0%	6.0%	4.5%
	保護者	69	5.8%	46.4%	13.0%	4.3%	2.9%	8.7%	18.8%
H	児童	64	1.6%	67.2%	0.0%	1.6%	9.4%	6.3%	14.1%
	保護者	66	1.5%	34.8%	7.6%	3.0%	6.1%	9.1%	37.9%

凡例  : 当該回答者割合のうち最上位
 : 当該回答者割合のうち上位3項目

表 3. 緑の利用目的

		合計	遊具を使って遊ぶ	スポーツをする	体を動かさない遊び(ゲームなど)	休憩	動物や植物を眺める	昆虫を捕まえる	散歩	通行	掃除	トイレ	イベント	教室参加	集会	子供と遊ぶ	その他	
			児童	保護者	児童	保護者	児童	保護者	児童	保護者	児童	保護者	児童	保護者	児童	保護者	児童	保護者
全体	児童	411	53.8%	53.0%	17.0%	24.1%	4.9%	11.2%	16.5%	19.2%	3.6%	7.5%	5.6%	0.7%	2.9%	7.8%	3.9%	
	保護者	361	5.5%	11.4%	0.6%	16.9%	8.9%	2.2%	41.0%	31.9%	11.4%	1.1%	6.4%	0.3%	5.3%	33.0%	8.6%	
小学校区	A	児童	66	48.5%	53.0%	22.7%	27.3%	7.6%	7.6%	19.7%	15.2%	1.5%	10.6%	6.1%	0.0%	3.0%	6.1%	9.1%
		保護者	58	6.9%	13.8%	0.0%	13.8%	8.6%	3.4%	39.7%	17.2%	12.1%	3.4%	0.0%	0.0%	5.2%	41.4%	15.5%
	B	児童	33	54.5%	60.6%	21.2%	24.2%	3.0%	3.0%	12.1%	15.2%	6.1%	12.1%	3.0%	3.0%	0.0%	12.1%	3.0%
		保護者	28	7.1%	14.3%	3.6%	14.3%	3.6%	0.0%	35.7%	42.9%	3.6%	0.0%	3.6%	0.0%	3.6%	35.7%	3.6%
	C	児童	44	47.7%	54.5%	6.8%	6.8%	2.3%	15.9%	9.1%	20.5%	0.0%	2.3%	2.3%	0.0%	0.0%	4.5%	4.5%
		保護者	38	2.6%	18.4%	0.0%	18.4%	10.5%	0.0%	36.8%	23.7%	10.5%	0.0%	7.9%	0.0%	5.3%	34.2%	5.3%
	D	児童	61	63.9%	55.7%	18.0%	26.2%	3.3%	19.7%	14.8%	23.0%	1.6%	16.4%	6.6%	0.0%	4.9%	13.1%	1.6%
		保護者	59	6.8%	5.1%	1.7%	22.0%	13.6%	3.4%	52.5%	40.7%	8.5%	1.7%	6.8%	1.7%	0.0%	37.3%	11.9%
	E	児童	45	41.7%	50.0%	6.3%	20.8%	6.3%	12.5%	25.0%	22.9%	0.0%	2.1%	4.2%	0.0%	2.1%	10.4%	2.1%
		保護者	42	7.1%	9.5%	0.0%	19.0%	14.3%	4.8%	47.6%	38.1%	2.4%	0.0%	2.4%	0.0%	2.4%	28.6%	9.5%
	F	児童	39	61.5%	48.7%	17.9%	30.8%	2.6%	0.0%	17.9%	15.4%	5.1%	0.0%	5.1%	5.1%	7.7%	5.1%	7.7%
		保護者	36	8.3%	8.3%	0.0%	30.6%	8.3%	0.0%	47.2%	36.1%	16.7%	0.0%	11.1%	0.0%	11.1%	27.8%	8.3%
	G	児童	62	58.1%	51.6%	19.4%	24.2%	4.8%	16.1%	19.4%	22.6%	14.5%	9.7%	11.3%	0.0%	1.6%	3.2%	1.6%
		保護者	55	5.5%	10.9%	0.0%	7.3%	0.0%	0.0%	40.0%	30.9%	25.5%	0.0%	9.1%	0.0%	5.5%	32.7%	3.6%
	H	児童	58	53.4%	51.7%	20.7%	29.3%	6.9%	8.6%	12.1%	17.2%	0.0%	3.4%	3.4%	0.0%	3.4%	8.6%	1.7%
		保護者	45	0.0%	13.3%	0.0%	13.3%	11.1%	4.4%	24.4%	31.1%	6.7%	2.2%	11.1%	0.0%	11.1%	22.2%	6.7%

凡例 ■■■■ : 当該回答割合のうち最上位, ■■■ : 当該回答割合のうち上位3項

3-2. 緑利用の実態

児童の「利用目的」は、「遊具を使って遊ぶ」、「スポーツをする」、「休憩」、「通行」、「体を動かさない遊び(ゲーム等)」の順で高い割合を示している。一方保護者の「利用目的」は、「散歩」、「子供と遊ぶ」、「通行」、「休憩」、「掃除」となっている。(表3)

「利用頻度」は、児童はA・C・D・G小学校区は「週1回」、H小学校区は「ほぼ毎日」、B・F小学校区では「週1回」、「月1・2回」が同じ割合で最も高くなっている。保護者は全学校区で「月1・2回」が最も高くなっている。

3-3. 緑空間の現状

「利用している緑空間」の現状については、「緑量」、「空間の広さ」、「遊具の数」、「休憩施設の数」、「生物の数」、「管理」、「眺め」の7つの項目についてそれぞれ7段階で評価をしてもらった。7段階にはそれぞれ1~7までの評価点を付けた。項目ごとに学校区で評価点の平均を算出した。これより、遊具の数についての評価は児童、保護者共に評価が低くなっていることがわかる。(表4)

また、「住んでいる周辺の緑空間」の現状についても、「利用している緑空間」の現状と同様、「緑量」、「管理」、

「眺め」の3項目について7段階で評価をしてもらった。

4. まとめ

今回の調査では、以下の3点が現状の評価として得られた。

1. 全学校区で公園が最も多く利用されている。
2. 保護者よりも児童の方が緑利用の割合が高い。
3. 利用頻度、利用時間は学校区によって大きな差はみられない。

利用者の意識としては、以下の3点があげられる。

1. 「利用している緑空間」、「住んでいる周辺の緑」についての評価は児童と保護者で大きな差はみられない。
2. 各項目の全体平均は2.00後半~4.00前半となっている。
3. 「緑量」が多いと「眺め」が良いと感じる傾向がある。

以上のように、本稿では学校区を単位とした緑地利用の現状と利用者の意識について把握できた。

【補注】

※ 井上恵:緑勢園についての考察,1986年,大阪市公園局業務論文報告集にあるように、緑の効用が市民へ影響を及ぼす圏域を緑勢圏と定義し、人間の知覚・行動に沿った人間的な尺度により評価するとある。本研究では、人が緑と関わることで生まれるものであり、緑地が人々の行動・心理に影響を与える圏域とした

表 4. 利用している緑の現状の評価

	CL	緑量		空間の広さ		遊具の数		休憩施設(ベンチ等)の数		生物の数		管理		眺め		
		児童	保護者	児童	保護者	児童	保護者	児童	保護者	児童	保護者	児童	保護者	児童	保護者	
小学校区	A	2	3.83	3.66	3.80	3.80	2.77	3.14	3.30	3.25	3.23	3.29	4.66	4.60	4.48	4.55
	B	8	3.47	3.24	3.50	3.33	2.81	2.64	3.06	2.90	2.55	2.66	3.71	4.00	4.16	3.84
	C	4	3.86	3.85	4.05	3.73	2.70	2.64	3.12	2.69	3.24	3.13	3.75	3.80	4.27	4.20
	D	5	3.86	3.71	3.79	3.61	2.93	2.95	3.26	3.11	3.02	3.16	4.23	4.11	4.07	4.09
	E	6	3.35	3.26	3.38	3.21	2.40	2.63	2.84	2.70	2.72	2.69	3.94	4.30	3.88	4.12
	F	7	3.73	3.42	3.82	3.56	2.85	3.06	3.13	2.79	2.75	2.82	3.98	3.94	4.18	4.18
	G	3	4.00	3.87	3.92	3.78	2.67	2.76	2.89	2.69	3.05	3.13	3.77	3.50	4.29	4.15
	H	1	3.47	3.30	3.38	3.16	2.69	2.69	2.97	2.78	2.64	2.77	3.90	3.88	3.85	3.65
	全体		3.70	3.54	3.70	3.52	2.73	2.82	3.07	2.86	2.90	2.96	3.99	4.02	4.15	4.10
評価点	7		とても多すぎる		とても広すぎる		とても多すぎる		とても多すぎる		とても多すぎる		とても手入れされている		とても良い	
	6		多すぎる		広すぎる		多すぎる		多すぎる		多すぎる		手入れされている		良い	
	5		やや多すぎる		やや広すぎる		やや多すぎる		やや多すぎる		やや多すぎる		やや手入れされている		やや良い	
	4		ちょうどよい		ちょうどよい		ちょうどよい		ちょうどよい		ちょうどよい		ふつう		ふつう	
	3		やや少なすぎる		やや狭すぎる		やや少なすぎる		やや少なすぎる		やや少なすぎる		やや荒れている		やや悪い	
	2		少なすぎる		狭すぎる		少なすぎる		少なすぎる		少なすぎる		荒れている		悪い	
	1		とても少なすぎる		とても狭すぎる		とても少なすぎる		とても少なすぎる		とても少なすぎる		とても荒れている		とても悪い	

* 大分大学大学院工学研究科博士前期課程 Graduate Student, Oita Univ.
 ** 大分大学工学部福祉環境工学科・准教授 博士(工学) Associate Professor, Dept. of Architecture, Faculty of Eng, Oita Univ., Dr.Eng
 *** 大分大学工学部福祉環境工学科・教授 工学博士 Professor, Dept. of Architecture, Faculty of Eng, Oita Univ., Dr.Eng